



新年のごあいさつ

飛驒市長
都 竹 淳 也

新年明けましておめでとうございます。日頃より市政にお寄せいただいておりますご支援とご協力に対し、心から感謝を申し上げます。

昨年は、新天皇が即位され「令和」という新たな時代がスタートしました。新元号発表時に菅官房長官が掲げられた額を揮毫されたのが飛驒市古川町出身の茂住修身さんであったことから、飛驒市は二重の祝賀ムードで盛り上がりました。当市の出来事を振り返りますと、昨年3月27日には、念願であった「ひだ宇宙科学館 カミオカラボ」がオープンしました。普段感じることでできない素粒子の不思議な性質を迫力ある映像やゲームで体験できる施設として大変ご好評いた

だいており、開館以来すでに入館者が12万人を超えております。また、10月13日には、「全国薬草シンポジウム2019 in ひだ」を当市で開催することに合わせ、飛驒の薬草を見て、知って、体験できる施設である「ひだ森のめぐみ」をオープンすることができました。そして、飛驒古川まつり会館のリニューアルにも着手しており、今年の4月には完成しますので、さらに集客強化を図ります。

今年は、市議会や総合政策審議会でご議論いただきながら策定中の、今後の市の基本方針となる「飛驒市総合政策指針」で示しているとおり、「元気であんきな誇りの持てるふるさと飛驒市」づくりに向けた政策を柱とし、飛驒市の将来像を「みんなが楽しく心豊かに暮らせるまち」として、誰一人取り残されず、互いを家族のように支えあえるまちづくりを進めることとしております。

その中で、「元気」の分野では、これまでさまざまな農畜産物や特産品の掘り起こしとブランディングの支援をしてきましたが、時代の潮流を捉えた新しい事業や商品、サービスの創造に挑戦する事業者を応援し、都市部や海外への販路拡大やICTを活用した事業の効率化の支援、そしてさらに進行する人手不足対策を推進することとしています。また、「関係人口」

と言えるようなコアな飛驒市ファンが市外の方々や困りごとのある市民の皆さまのマッチングを行う「関係案内所」の開設などを行うこととしています。

「あんき」の分野では、養護老人ホーム「和光園」、神岡町の複合児童福祉施設がオープンいたします。高齢者が安心して暮らすための支援、弱い立場の方が一人ひとりありのままの自分を大事にされるための環境づくりを継続して行いながら、特に、閉じこもりの方の支援について強化を図ることとしています。そして、子育て世代が安心して子供を産み、育てられる環境づくりとしておむつ用ごみ袋の支援や遊び場の整備に新たに取り組むこととしています。また、市民の皆さまが生涯現役で健やかに暮らせるよう全世代の健康づくりとして、減塩や口腔ケアの推進、シルバーリハビリ体操指導士の養成などに取り組むこととしています。

「誇り」の分野では、昨年から着手した「飛驒市学園構想」の中で、目指す未来の創り手像や課題解決型人材育成のためのカリキュラムなどについて検討委員会で協議が重ねられており、コンセプトがまとまってきております。それにより、学校と地域が一体となつてのカリキュラムの実践に入っていくこととなります。そして、これまで開催してきた生涯学習講座やみんなの博

覧会、専門分野の研修講座などを大学のように体系立てて、どんな世代でも楽しく学び、自分を磨きながら仲間づくりをできる場を整備することとしています。

今年も地域やさまざまな現場に向き、対話することによって、市民の皆さまの困り感に直接対応する姿勢を堅持するとともに、市民の皆さまのいろいろな活動を繋いで交流を深めることで、ともに力を合わせて活動していきます。そして、前向きな気を市全体で共有し、一丸となつて前に進んでまいります。引き続き皆さまのお力添えをお願いいたします。

新しい年が皆さまにとって幸多き年となりますことを、心よりご祈念申し上げます。年頭のご挨拶といたします。





平成から令和へ

飛騨市議会議長

中 嶋 国 則

新年明けましておめでとうございます。輝かしい新春をご家族お揃いでお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

市民の皆さまには、議会運営や活動に對しまして温かいご支援とご協力を賜り、心より感謝を申し上げます。

昨年は、元号が平成から令和へと代わり、新しい時代の幕が明けました。新元号が発表された4月1日は、各地で歓声がわきあがり、令和を報じた新聞の号外が飛びようになくなるようすがテレビに映し出され、どの顔も嬉しそうで久しぶりに国民が一体となつ

たと感じました。

この日から始まった「令和」へのブームは、飛騨市にとりましても全国に名を知らしめたのではないでしょう。

それは、「令和」を揮毫された茂住修身さんが古川町出身であり、古川町に令和（れな）ちゃんという2才の女の子が誕生していたことが報道され、脚光を浴びたことも記憶に新しい出来事でした。

平成から改まった元号「令和」には、「人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つ」という意味が込められています。

9月に行われたラグビー・ワールドカップで日本代表選手の半数を占める外国出身選手が、第二の故郷「の国歌」君が代」を完璧に歌いました。リーチ・マikel主将が中心となり、歌詞や意味を外国出身者に説明、理解するように伝えたとの新聞報道がありました。

『外国出身選手が君が代を歌う姿を見て泣きそう』『日本人より日本人らしい』そんな感動を与えてくれた日本チームの4連勝でした。まさしく令和に込められた意味「人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つ」が実現され、スポーツ文化が花咲いたラグ

ビー・ワールドカップでした。

さて、飛騨市内の事業に目を向けますと、スーパーカミオカンデなどの宇宙物理学を紹介する「ひだ宇宙科学館 カミオカラボ」が3月27日にオープンし、12月末までには、入館者が12万人を超えたことや、神岡鉱山の地下に大型低温重力波望遠鏡「KAGRA」が、10月に完成し観測を始めたことも、市民にとりまして、誇りと夢を与える出来事でした。

また、11月13日には、神岡町の山田小学校跡地で「多機能型障がい者支援施設」の起工式が行われました。この施設は、障がい者の生活介護（定員10名）、就労支援訓練（定員10名）、短期入所ショートステイ（定員4名）、日中一時支援（定員10名）などのサービスが行われる施設が2億円余りを投じて建設され、今年の12月には完成予定であり、山田地域の皆さまをはじめ市民の皆さまとの交流が益々深まることを期待するものです。

また、飛騨市スポーツ施設整備計画に屋内運動場の整備が盛り込まれ、全天候でスポーツが楽しめる新たな運動場の青写真が新年度にはできるものと期待しています。更に、4月には「飛騨古川

まつり会館」展示装飾の大幅リニューアルが竣工し観光客の増加が期待されます。

行政の使命は何か。それは、市民がいつまでも安心して暮らせる環境を整えることです。

そのために、市議会は地域の皆さま一人ひとりに寄り添う気持ちで多様な意思を把握し、その運営に反映されるよう努めてまいります。

地域経済活性化のための政策を推進するためには、自主財源の確保が重要であります。

政策経費の自主財源として期待されるのがふるさと納税であり、元年度収入は、過去最高の10億円を期待しています。

トップセールスをされる市長はじめ職員のアイデア実践など、また飛騨市を応援してくださる全国の皆さまに感謝を申し上げます。

むすびに、新しい年が市民の皆さまにとりまして、幸せで実り多い年となりますこと、議員一同心よりご祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。